

平成21年度 学校評価シート

江津市立津宮小学校

No. 1

中期目標(今年度の学校経営の重点)	短期目標(具体的な目標)	成果・取組指標(目標達成のための手立て)	自己評価		改善策	学校関係者評価		
			達成状況	評価		考察	評価	
分かる授業の創造に努め、豊かな学力の定着を図る。	①豊かな表現力を培い、ともに学ぶ力を高める学習集団づくり。	○読解力及び言語的表現力の向上を目指した指導方法を工夫する。	・各教科・領域、総合的な学習の時間等において、読む力、話す力を高める。 ・話型、文章表現等の仕方について、授業の視点に盛り込み、繰り返し指導していく。	・児童の読む力、話す力の伸長のため、児童の実態に応じた継続した指導に努めることができた。 ・話型を示す掲示物を全学年掲示するなど、目標を意識して学習指導に取り組むことができた。	B	・「話すこと」の指導においては、目的に応じた話し方や話し合い方についての具体的な指導を日々の学習指導で行っていく。 ・「伝え合う力」を高めるために、目的意識が働くような学習活動を工夫するとともに、他者の考えを読み取り代わって説明したりする活動等を取り入れ、授業改善に努める。	・地域に戻っても人の話を聞き、それに対して自分の考えをおだやかに伝えることを実践できるようになってほしい。 ・言葉による「コミュニケーション能力」の定着はまだ発展途上である。重点的な指導が必要であると思う。	C
		○各学級において、ともに学ぶ力を高める学習集団をつくる。	・学習中に自分の考えを確かに持ち、友だちの考えと比較・検討する場を設定する。 ・学習集団づくりについて、学級経営の課題として取りあげて実践する。	・各学級において、個人の思考を大切にすする場や集団で思考を深める場を設定するなど授業改善に取り組んだ。 ・児童アンケートでは、71%が肯定的である。	B			
	②少人数授業や特別支援の取組により、個に応じたきめ細かな指導。	○少人数授業により、個に応じたきめ細かな指導方法を工夫する。	・担任と担当の連携を密にし、個々の状況を的確に把握し指導にあたる。 ・TT指導の効果的な形態、それに応じた指導方法等工夫する。	・習熟の程度に応じた指導や、児童の興味・関心等に応じた学習など、各教科、単元において個に応じた指導をTT指導で進めることができた。 ・児童アンケートでは79%が肯定的である。	B	・TT指導の形態を生かしながら、児童の実態に応じた発展的な学習や課題を取り入れていく。 ・TT指導打ち合わせの時間の確保に努める。 ・対象児童の状況変化に応じたケース会議や定期的な校内委員会の実施に努める。	・可能な限り、個別にゆつくり丁寧な指導を心がけてほしい。	B
		○特別に支援を要する児童への配慮や指導の方法を工夫する。	・ここにこST、特別支援教育支援員、学力向上支援員を有効に活用する。 ・特別支援教育の取組方法について校内研修を行う。	・非常勤講師や支援員等と連絡ノートによる情報共有により、支援対象児童のニーズに応じた指導ができた。 ・特別支援教育校内研修により、考え方や手法を教員が身につけていく。	B			
	③明確なねらいを持った教育活動の企画と実践。	○算数科を中心とした校内研究を充実させる。	・全学級担任が校内研究の視点を持った研究授業を行う。	・6月23日の県数研大会では、全学年授業公開を行い、参観された各地の先生方からお褒めの言葉をいただいた。 ・全学級担任が研究の視点を持った研究授業を行った。	A	・県数研大会の公開授業及び研究全体の成果と課題を次年度の実践に生かす。 ・学力向上対策の評価法について検討し、一人一人の成果が見えるよう工夫する。 ・新教育課程への適切な移行のための研修の充実を図る。	・算数で多くの児童がつまづいている様子だ。特に低学年時に算数の楽しさを味わわせてほしい。	B
		○着実な学力向上対策により、児童一人一人に成果が現れる。	・児童一人一人の学力の伸びが児童に実感できる学力向上対策を工夫する。 ・新教育課程への移行を円滑に行うと共に、職員研修による内容の周知徹底を図る。	・全校漢字・計算テストの継続した取り組みや、学習プリント配信システムの積極的活用等、学力テストの結果分析をもとに学力向上対策を行った。 ・新教育課程周知のための職員研修を実施した。	B			
ふるさと教育	地域の「ひと、もの、こと」を積極的に活用した教育活動を工夫する。	○各学年の内容について焦点化を図り、外部人材の活用を促進する。	・「ふるさと教育」で身につけたい力を明確にし、全体計画、年間指導計画の見直しを行う。 ・地域コーディネーターと共に外部人材バンクを作成する。 ・活動記録を残し、HP等で情報を発信する。	・各教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間で全学年が「ふるさと教育」の目標に沿った実践が行われた。 ・学校HPの更新が遅れ、適時な活動紹介ができていない。 ・外部人材バンクについては、情報収集は行ったが、完成していない。	B	・学んだことを他者に発信し、他者の評価を得て、児童が学ぶ意義や充実感を味わえるよう学習活動を工夫する。 ・学校支援地域本部事業での取り組みと連携し、外部人材バンクを完成する。	・地域文化の伝承のため、地域の力を活用してほしい。(例えば盆踊り等。人間形成の一環として、また、郷土愛を育むために。) ・学校の年間計画と学校支援地域本部事業の活動計画のすりあわせ等、連携強化を期待する。	C

中期目標(今年度の学校経営の重点)		短期目標(具体的な目標)	成果・取組指標(目標達成のための手立て)	自己評価		改善策	学校関係者評価		
				達成状況	評価		考察	評価	
援助する。道徳教育・生徒指導の充実により社会的自己実現を支援する。	道徳教育	①教育活動を通しての道徳的実践力・人間尊重の精神の涵養。	○いじめのない学校を目指し、心に響く道徳教育を推進する。	・いじめの実態件数ゼロを目指す。 ・道徳の時間の確保と実態に応じた指導内容の重点化を図る。 ・各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動に、道徳的な観点を持たせる。	・いじめにつながる言動や暴力に対し、教職員が常に危機意識を持って対処し、指導を続けてきた。 ・全学級とも道徳の時間の完全確保及び心に響く道徳授業のための教材・指導方法の工夫等授業改善を行った。	B	・コミュニケーション能力の弱さや耐性の乏しさ等から、上手に関わりを持っていない児童への指導について全教職員で研修を深めていく。 ・道徳性の評価について、児童自らが成長を実感できるよう働きかける。	・道徳教育は学校だけの取り組みでは不十分。子どもを取り巻く地域・家庭への働きかけも必要ではないか。PTAで取り組みむことも考えはどうか。	C
	生徒指導	②共感的児童理解に基づく生徒指導の充実。	○児童理解研修を充実する。	・全児童を対象とした教育相談を定期的に行う。 ・外部講師を招いてのカウンセリングマインドの手法を生かした生徒指導研修を行う。	・適時な個別の相談や定期的な教育相談の機会を生かし、児童の願いや悩みによりそよう努めた。 ・職員会議や職員室での情報交換により、生徒指導上の情報共有が深まった。	B	・外部講師を招いての研修会を行う。 ・小グループでの事例研究により研修を深める。	・カウンセリングの手法を学ぶ研修会の充実を期待する。 ・児童理解については、地域のスポーツ指導者等の活用も考えてはどうか。	C
			○自尊感情の醸成を目指した教育活動を工夫する。	・授業や学校行事の中での生徒指導を意識し、児童に達成感・成就感を持たせる機会を作る。 ・褒賞の機会を設ける。	・賞賛の機会が十分に設定できなかったためか、児童アンケートでは肯定的意見は38%にとどまっている。	・全教職員が、日々の授業や生活指導において、その子のよさを認めその場ですぐに褒めるという意識を持って取り組む。	B	・学級の児童の実態に即して、焦点化して徹底して取り組む。 ・家庭との連携、協力をお願いする。	
③教職員の共通理解・協力体制により、社会規範を遵守する態度の育成。	○へんじができ、はじめのある行動がとれる児童の育成する。	・生徒指導の重点項目とし、全教職員で指導にあたり、適切に評価する。 ・家庭・地域へ情報を発信し、連携した指導協力を求める。	・重点項目として実践・評価・改善を行ってきた。 ・保護者の評価は55%と低い、生活目標を守ろうと努力している児童は68%いる。	・重点項目として実践・評価・改善を行ってきた。 ・保護者の評価は55%と低い、生活目標を守ろうと努力している児童は68%いる。	B	・学級の児童の実態に即して、焦点化して徹底して取り組む。 ・家庭との連携、協力をお願いする。	・学級の児童の実態に即して、焦点化して徹底して取り組む。 ・家庭との連携、協力をお願いする。		
		○朝読書の充実により、落ち着いた朝のスタートを切る。	・朝読書の時間確保及び図書選定の指導に努める。 ・図書司書を活用した取り組みを行う。	・学校図書館の環境の改善や、学校司書配置による「常に人のいる図書館」となり、朝読書の充実につながっている。	A	・地域ボランティアの活用・充実を図る。 ・児童と図書との出会いの場を広げることで、図書選定の力を伸ばす。			
楽しい安全学校の創造に努め、安心で	体力の向上	①体力・気力の向上を図る健康安全・体育の充実	○重点的な体力づくりを行う。	・教科体育では、全学年体力作りのための運動を取り入れる。 ・水泳検定、なわとび検定を行う。 ・走る力・投げる力を伸ばす。	・目標達成のための具体的手立ては全て実施できた。体力作りを頑張っていると答えた児童は75%である。 ・投げる力を伸ばす運動のための道具・施設の充実が図られた。	A	・児童の体力の実態や運動に対する意識の把握に努め、個に応じた指導を工夫する。 ・全校で行う水泳・なわとび検定を継続する。	・校内で気を付ける場所を示したマップを作成するなど、子ども達に安全な生活を意識させるよう働きかけてはどうか？	
	安全対応能力の向上	②危機管理体制の確立と安全意識とルール遵守の態度の育成。	○児童の安全意識を高め、危険回避能力を高める指導を行う。	・学校事故ゼロを目指す。 ・職員研修の実施及び各学年で実態に応じた安全教育を行う。 ・毎学期の避難訓練、PTAとの共催で救急法講習会を行う。	・校内事故9件(1月末現在)、校内での怪我は昨年より減少の状態である。校外生活での安全を意識していると答えた児童は79%である。 ・安全教育、避難訓練、救急法講習は計画通りに実施できた。	B	・毎月の校内安全点検による危険箇所等の把握、早急な修繕に努めるとともに、児童の危険回避能力を高める学習・行事を計画的に組んでいく。		
	健やかな体	③食育・生活リズムの徹底を図り、児童の健康の維持増進を図る。	○食育、生活リズムの確立を目指す。	・PTAと連携し、元気っ子を育てる会を拡充する。 ・栄養教諭を活用して食育を推進する。 ・健康教育実践記録を作成し、情報を発信する。	・元気っ子を育てる会提唱の「早寝・早起き・朝ごはん、テレビ・ゲームの時間」は91%の保護者が声かけに努めている。 ・健康教育実践記録を作成した。	A	・「食事」「休養・睡眠」「運動」の習慣化について、PTA母親委員会・保体部と連携して、今後も取り組んでいく。 ・養護教諭・栄養教諭と連携したTT指導による学習を計画的に実施する。		

中期目標(今年度の学校経営の重点)		短期目標(具体的な目標)	成果・取組指標(目標達成のための手立て)	自己評価		改善策	学校関係者評価		
				達成状況	評価		考察	評価	
豊かな情操を培う環境づくりをする。	学校運営	①教職員の目標に向かう協働の姿と子どもの好ましい人間関係の構築。	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員の自己目標達成に向け、具体的な取組を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年部、分掌部等での情報交換の場を設定し、支援体制を整える。 ・学級経営の重点項目にリンクした自己目標の設定を行い実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報交換の場の設定により、個々の目標達成への手立てや取り組みについて相談・協力ができ成果を収めた。 ・教職員は82%が肯定的な評価を行っている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の目標達成が学校経営の重点からおろした自己の学級・専科等経営のポイントと自己目標をリンクして設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年を越えた人間関係(縦のつながり)作りが不十分。 	B
		○好ましい人間関係の構築を目指した取組を充実する。	<ul style="list-style-type: none"> ・なかよし班活動やなかよし集いのねらいを明確にし、さらなる充実を図る。 ・学級集団、登校班、掃除班等での友だちとの関わり方について指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・みんながなかよくするために、児童会や委員会がいろいろなことに取り組んでいると感じている児童は87%である。 ・登校班や掃除班での児童間のトラブルには、各担当教員が素早く対応し、指導してきた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の自発的・自立的な活動が助長される活動となるよう適切に指導する。 ・友だち同士の関わり方について、その具体的な方法を体験的に学ぶ学習を組み込む。 			
	安全管理	②施設設備の保全及び文書・備品の管理の徹底と、安全確保及び教育効果を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ○安全・環境に視点を置いた点検を毎月行う。 ○文書及び備品管理の工夫改善を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月15日に環境安全点検を行う。 ・委員会活動での児童による安全点検を実施する。 ・毎学期、遊具の安全点検を行う。 ・文書管理システムの定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の環境安全点検、遊具の点検を行った。老朽化による施設・設備の不備については、市教委等に報告し、修繕を求め続けている。 ・事務職員の働きかけにより、教員の文書管理・備品管理への意識化が図られた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・施設設備の安全管理については、引き続き市教委との連携を密にし、取り組んでいく。 ・文書管理・備品管理の徹底を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校庭の整備状況について検討をお願いする。 	B
		③教育活動に資する校舎内外の言語環境の整備。	<ul style="list-style-type: none"> ○教室や廊下の掲示について、工夫改善を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な言葉遣いについて全学年で実態に応じて指導する。 ・定期的な言語環境の点検、アンケート調査による状況把握を、環境整備に反映させる。 ・言語環境の整備について、情報を発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導上、人権・同和教育上の指導も含めて、言葉遣いについて繰り返し指導してきたが、十分と言えない。 ・県数研大会を機会に、校舎内外の言語環境の整備について進めることができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導時、生活指導時共に話し方・聞き方、敬語、掲示、校内放送等、教職員で共通理解を持って指導にあたる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉遣いについては、テレビや雑誌等のメディアによる影響が大きく、学校教育だけでは解決できない部分が多い。 	B
	学習生活環境	④子どもの感性・情操を育む自然環境の創造と活用。	<ul style="list-style-type: none"> ○「うるおい」と「ぬくもり」のある環境整備を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちにとって、「居心地のいい場所」「お気に入りの場所」を提供する。 ・中庭、ベランダ、階段、校庭周辺、玄関などを重点的に整備する。 ・自然に親しむグッズを揃える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教室や空間の不足という中で掲示物の工夫や生花による装飾等教室環境の整備、季節に応じた中庭等の自然環境の整備により、82%の児童が、勉強したり遊んだり気持ちよくすごせる学校と回答しているが、保護者の評価は61%と低い。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の思いや全教職員の考えを取り入れながら、津宮小学校ならではの学習・生活環境の創造に努める。 		
		学校間の連携	幼・保・小・中の学校種間の連携を図り、児童生徒の心豊かで健全な育成に資する。	<ul style="list-style-type: none"> ○幼稚園との交流学习を行う。 ○小中学校教職員の相互交流の場を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・津宮幼稚園、のぞみ保育園との交流を行う。 ・中学校の教員、江津高校英語科教員を招いて授業交流を行う。 ・各関係機関との連携を密にし、次の校種への円滑な接続が図られるよう努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園、保育園との情報交換、幼児児童間の交流活動により、幼児児童についての共通理解を図ることができた。 ・江津高校生徒・教員との授業交流・授業研究会を実施した。 ・特別な支援を要する幼児児童について情報共有の機会を設定し、校種間の滑らかな接続に向けて努力した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・校区の幼稚園・保育所から中学校までを見通し、各校教職員が望ましい学習・生活習慣について継続的に指導できるよう共通理解する機会を積極的に設定するよう努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・適切に評価されている。

中期目標(今年度の学校経営の重点)		短期目標(具体的な目標)	成果・取組指標(目標達成のための手立て)	自己評価		改善策	学校関係者評価		
				達成状況	評価		考察	評価	
人権教育の推進	人権・同和教育	①同和教育を核とした人権教育を推進する。	○人権・同和教育に視点を当てた参観授業を行う。	・人権・同和教育研修の年間計画を整理し、職員研修を充実する。 ・人権・同和教育に視点を当てた参観授業を全学年実施する。	・10月の参観日は、全学級で人権・同和教育に視点を当てた参観授業を行った。 ・職員研修は計画通り実施できたが、自らの人権意識の高揚、人権・同和教育の成立基盤としての学習環境の整備の点で、さらなる充実が求められる。	B	・職員間で何でも話し合える雰囲気(人間関係)作りに今後も努める。 ・家庭や地域社会に対して、人権・同和教育への理解と協力を得よう努力する。 ・職員研修のさらなる充実を図る。	・職員間の何でも話し合える雰囲気という点が不十分。	C
	特別支援教育	②特別支援学級・通級指導教室・通常の学級での個のニーズに応える特別支援教育を積極的に推進する。	○特別支援部により、推進体制を強化する。	・職員研修の機会の確保、内容及び方法を工夫する。 ・担任、担当等との情報交換を適時に行い、機動性を持った指導に努める。 ・個別の支援計画、指導計画を綿密にする。 ・特別支援教育に関わる情報を保護者に積極的に発信する。	・コーディネーターの積極的な働きかけにより、児童に適切な支援を行うための校内体制が適時改善されるとともに、担当、担任等の連携が図られた。 ・充実した職員研修での学びが、各学級での指示や課題提示の工夫、TT等のきめ細かな指導につながった。 ・特別支援教育通信の発行が教職員・保護者へ回数多く行われた。	A	・校内検討委員会での実態把握、具体的支援、指導の評価等検討についてのシステム作りを推進する。 ・障がいにかかわる特性や支援のあり方などについて、理解学習やたより等による情報発信を行い、他の児童や保護者へ積極的に理解啓発を図る。	・担任、担当者、支援員の更なる連携による特別支援体制の充実に期待する。	B

自己評価については、A:十分達成 B:ほぼ達成 C:一部に課題がある D:大きな課題がある とし、

アンケート結果、実績値などの数値化によって評価する。その場合、100%の達成率に対して、A:80%以上 B:60~79% C:40~59% D:39%以下とする。